

第3学年 英語科学習指導案

研究テーマ

自らの知識・技能を生かして、主体的・対話的に問題解決を図る生徒の育成

単元を通して育成したい子どもの姿

自らの知識・技能を用いて、試行錯誤しながら課題解決に取り組む姿

1 単元名 Unit4 Be Prepared and Work Together

2 単元の見どころ

- (1) 間接疑問文とSVOO(what節)の文、現在分詞・過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [知識及び技能]
- (2) 地域の一員として防災に取り組む意識をもつために、外国人支援の取り組みについて、簡単な語句や文を用いて話している。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 地域の一員として防災に取り組む意識をもつために、外国人支援の取り組みについて、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

本単元は、防災というテーマを扱っており、私たちが多くの災害に直面する日本に住んでいることを再認識させ、自己を守り、同時に他者を守るという意識を高めさせるには適当な教材である。

今まで、生徒は防災訓練を行うことで、災害に備えようとする意識はあるが、日本にいる外国人が災害の際どのような状況に直面するかということまでは想像できないであろう。

そこで、災害時に困っている外国人に対してどのように申し出て行くべきかを考えさせていきたい。

言語材料は間接疑問文、現在分詞・過去分詞の後置修飾である。Unit5で学習する関係代名詞とあわせて後置修飾の考え方に慣れさせるとともに身近な自己表現ができるように指導したい。

「町中での手助け」では、既習事項を用いることで、いろいろな申し出ができることを確認し、また、新たな申し出の仕方を学ぶことで、場面や状況にあった申し出、相手を意識した申し出になるように考えを深めさせたい。さらに自分たちの表現と友達の表現を比較することで、より相手を意識した申し出になるためにはどうしたらよいかを考えさせ、自分たちのやり取りを修正し、進化させた申し出になるように取り組ませたい。

4 単元計画 (全13時間)

次	時	・学習活動 (目指す子どもの姿)	※評価規準
一	1	・ラジオの災害情報を聞く。	※外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えたり伝えたりしている。[思・判・表][主] ※「間接疑問文の形・意味・用法」を理解している。[知・技] ※防災の意識を高めるために、どこにあるか、どのように行動するかなどを教えてほしいと依頼している。[思・判・表][主]
	2	・防災への意識を高めるために、外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えたり伝えたりする。	
	3	・間接疑問文の形・意味・用法を理解する。	
	4	・防災の意識を高めるために、どのように行動するかなどのやり取りをする。	
	5	・SVOO(what節)の文の形・意味・用法を理解する。	
二	6	・防災・安全への関心を高めるために、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉えたり、どのようなかかを説明したりする。	※防災・安全への関心を高めるために、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉えている。[思・判・表][主] ※「現在分詞・過去分詞の形・意味・用法」を理解している。[知・技] ※地域の一員として防災に取り組む意識をもつために、外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉えている。 [思・判・表][主]
	7	・現在分詞の形・意味・用法を理解する。	
	8	・地域の一員として防災に取り組む意識をもつために、外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉えたり、説明したりする。	
	9	・過去分詞の形・意味・用法を理解する。	
三	10	・防災への意識を高めるために、標識が何を意味しているかについて、対話する。	※困っている相手に対して、相手の立場に立った、具体的な提案をしたり、質問に答えたりしている。[思・判・表][主] ※間接疑問文、現在分詞・過去分詞の形・意味・用法を理解している。[知・技]
	11	・手助けを申し出る表現の意味や働きを理解して、本文を読む。	
	12 本時	・状況に合った手助けができるように、相手の立場に立った具体的な提案を申し出たり、相手からの質問に答えたりする。	
	13	・単元テストをする。	

5 本時の研究の視点

【視点1】既習の学びと関連づけて、相手を意識したコミュニケーションの工夫

○生徒にとって身近な場面設定を行い、目的や場面、状況によって、どの表現を用いたらよいかを考え、相手を意識した申し出ができるようにさせる。

【視点2】学びの連続性につながる振り返りの工夫

○何が分かったのか、他の考えに触れて新たに気がついたこと、次にどんな学習をしたいのかなどの視点を提示する。

6 本時で働かせる見方・考え方

○相手を意識した具体的な申し出になるように、場面や状況をしっかり捉えて考えさせていく。

7 本時のねらい

相手の立場に立ち、より適切な表現を用いて、申し出たり応じたりすることができる。

8 学習過程 (12/13)

学習内容・活動 (予想される子どもの反応)	時間	◇教師の支援 ※評価
1 前時の復習をする。 (1) 申し出る言い方を確認する。 ○ Would you like me to…? ○ Can I help you? ○ Shall I take you there? (2) STEP2 の音読をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 困っている相手に対して、相手の立場に立った、具体的な提案をしよう。 </div>	10	◇ 申し出る言い方を復習し、場面や状況に合わせて、どの表現を使うかを考えさせる。 ◇ 生徒にとって身近な場面を取り上げ、その状況に合わせて、相手を意識した申し出ができるようにする。(視点1) ◇ 雑音が入らずはっきりとした声で録画ができるように、2つの教室を利用して動画の練習や撮影を行う。
2 課題を解決する。 (1) STEP3 の対話をグループで練習 Try1 し、動画を撮る。 (2) 動画を見て、良かった点を共有する。 (3) グループでもう一度対話を練習 Try2 する。 (4) 代表グループの発表を聞く。	15 5 5	◇ グループで練習したら、1回目の動画を撮り、MetamojiClassroomで教師に送らせる。 ◇ 申し出る言い方がわからないときは、ヒントカードを活用して、対話を考えさせる。 ◇ 発表をモニタリングし、よかった点を話し合わせ、板書する。 ◇ 発表者と自分たちのやり取りを比較し、どうすれば相手の気持ちを考えた申し出になるか、もう一度取り組ませる。
3 本時のまとめをする。 (1) 学習内容の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○ 相手の状況に合った手助けをするためには、相手を意識した申し出になるように、より伝わりやすい言い方を考える必要がある。 </div> (2) 本時を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○ 困っている人がいたら、相手の立場になって手助けがしたい。 ○ 友達の発表と自分たちのやり取りを比較し、どうすればより伝わりやすい表現になるか考えた。 </div> (3) 次時の学習の見通しをもつ。	4 5 1	※ 相手の立場に立って、具体的な提案をしながら申し出たり、応じたりすることができる。(観察、発表) ◇ 振り返りの視点を口頭で提示し、振り返りをさせる。 ◇ 手助けをするときには何が大切なのか、生徒の言葉や発表から考えさせ、本時のまとめをする。 ◇ 何が分かったのか、どんな場面で活用できるのか、新たに知ったこと、次にどんな学習をしたいのかなどの視点を与える。(視点2) ◇ 友達の「振り返り」を聞いてモニタリングすることで、授業の中の新たな気づきや次の学習意欲につなげられるようにする。

